11月30日 稲垣次郎と原田忠幸が競演

白井音楽倶楽部が特別ライブ

サックス・デュオが白井で実現！

テナーサックスの稲垣次郎

バリトンサックスの原田忠幸

白井音楽倶楽部（松川輝雄会長）は11月30日（日）、稲垣次郎（テナーサックス）と原田忠幸（バリトンサックス）の両人を迎える。すっかり白井がお気に入りになった稲垣次郎が、今回もリラックスして演奏するのが楽しみ。

競演する原田忠幸は、「原信夫とシャープス＆フラッツ」「西条孝之介とウェスト・ライナーズ」に参加後、渡米。帰国後、「ウィンド・ブレイカーズ」や「ザ・サード」などで活躍した日本ジャズ・バリトンサックスのトップ奏者だ。ちなみに父親は、ジミー原田。この「サックス・デュオ」に美人ヴォーカルの三善香里が加わる。

三善香里

会場はオーガニックカフェ「ザ　ワークス」で、午後6時開演。特別会費3500円（ワンドリンクと軽食付き）。【問合先】白井音楽倶楽部（090・8460・7301松川／090・1800・7002幸正）

なお、当日は混雑が予想されるため、参加希望者は事前に連絡を。

地域の仲間でつくりました
しろいリフォーム
Tel(047)492-8009

幸正純治（こうしょうじゅんじ）の提案箱

北海道栗山町に学ぶ 議会改革の進め方

先月末、議会運営委員会の視察で北海道夕張郡栗山町に行ってきました。人口1万4000人足らずの栗山町は、全国に先駆けて「議会基本条例」を制定した自治体です。条例施行後、2年半経ちますが、全国の議会から視察団が後を絶ちません。

私たち9名が訪れたときも、熊本県阿蘇郡小国町からも来ており、総勢8団体59名での視察となりました。栗山町では、以前から「町民に役立つ議会は、町民の声を聞くことから」をモットーに、全議員による議会報告会が行われています。

議会の監視機能や政策提言活動などの状況を、それぞれの地域に出向き、町民に直接報告・説明し、町政に関する情報を提供しているのです。例えて言うなら、「議員の出張サービス」でしょうか。

住民が議会を傍聴するのが、これまでの一般的な形式でした。それだけではなく、「各議員が地域に直接出向いて住民と意見交換する機会を増やそうではないか。そうすれば、議員は住民の要求や生活課題を肌で感じることができる」というのが、議会基本条例を制定した栗山町の狙いです。

住民の利益を考えるなら、議員は政党や会派を超えて建設的な議論を交わし、意見を集約すべきでしょう。

さて、その議論なのですが、議会の中で自由に議論する場が確保されているかというと、そうでもありません。審議の過程で質疑の後、討論はあるのですが、一度行うと反論ができないのです。

私が委員長を務めた委員会では質疑後に暫時休憩し、議事録に残らない形で自由討議を行いました。この自由討議も議事録として残すべきです。

今、白井市議会では、何とか自由にディベート（討論）できる場を確保しようと取り組んでいます。視察した栗山町の場合、執行部から議員に反問することも可能。わが市議会でも実現すれば、自ずと議員同士の議論の質も向上するのでは。

この栗山町の視察から戻った翌々日、流山市の「議会基本条例報告会」に参加しました。流山市は今、千葉県で初の議会基本条例制定に向けて取り組んでいます。参加した市民は20名ほどですが、市民からの熱い質問に、議員が真剣に答えていました。流山市では、自治基本条例と議会基本条例を同時進行で策定しています。

しかし、条例はつくればよいというものではありません。策定段階でしっかりとした議論の中で議員自らを高めていくことが大切です。「議員は見えても議会が見えない」とよく言われます。これからも議会への市民参加を推進し、市民と議会が協力し合って「まちづくり」を推進したいものです。

アジアからの留学生が演奏会

ウイグル、キルギス、ミャンマーの弦をつまびく

白井国際交流協会

東京芸術大学留学生による民族楽器の演奏会「音でつむぐアジアの風・パート3」が12月6日（土）、白井市文化会館中ホールで行われる。

はるかな昔から民族の心をはぐくんできた「弦」の響きを楽しんでもらおうと、白井国際交流協会が主催（後援＝白井市、助成＝財団法人朝日新聞文化財団）。演奏する留学生と楽器は次のとおり。

アブドセミ・アブドラフマンさん（新疆ウイグル自治区）＝ラワープ、ウメトバエフ・カリマンさん（キルギス）＝コムズ、スーザーザー・ティジーさん（ミャンマー）＝サウン（ビルマの竪琴）。

いずれの留学生も学業の傍らプロの演奏家としても活躍中だ。演奏会は午後2時（1時半開場）から4時まで。入場無料。【問合先】白井国際交流協会事務局（電話445・3345）

森の音楽会

しろい環境塾

NPO法人しろい環境塾が11月16日（日）、平塚の里第2地区（白井市平塚「旧平塚分校」隣）で第4回森の音楽会（カントリー&ウェスタンコンサート）を行う。

里山の良さと環境塾の活動を多くの市民に知ってもらうのが、音楽会の目的。午後1時から3時までの2時間、ヒノキ林の中で竹林をバックに5人組の「BORDER COWBOY」が「ジャンバラヤ」「カントリーロード」などを披露する。

参加費百円（保険代等）。雨天の場合、旧平塚分校で開催する。【問合先】しろい環境塾（電話491・0660／担当・上西）

芸能振興会が「秋の発表会」

白井市芸能振興会（馬場崎隆二会長）の「秋の発表会」が11月3日（月）、白井市文化会館大ホールで開かれる。

例年同様、今年も午前10時（9時半開場）から午後4時頃まで舞踊、詩吟、民謡などを披露。入場無料。

博人館

花一杯の人生

生け花歴40年 フラワーデザインで講師育成にも努める

川西百合子さん

（フラワーデザイナー）

日本文化を若い世代に伝えるため、アートフェスタや文化祭などで茶華道を紹介しているのが、白井市茶華道協会だ。会長の川西さんは、千葉県茶華道協会の会員でもある。

5年前、日本代表の一員としてロシアのサンクトペテルブルグを訪れ、1週間の滞在中、市内の宮殿に設けられた会場で生け花の展示や来場者への指導を行うなど日本文化の紹介に努めた。「展示で使う花は、花市場で購入したんですけど、枝や葉物は『国立植物園に出向いてくれ』と言われたんです」

仕方なく、植物園の中を見て廻り、半信半疑で使いたいものを指差した。すると、希望通りに切ってくれるではないか。「あれがロシア流なんですかね。国の施設で植物を分けてくれるなんて、日本では考えられませんよね」

川西さんは、生け花歴40年。新池坊流の家元教授（上級講師）として活躍するかたわら、フラワーデザイン講師としても「花」の魅力を広めている。17年前に家族でヨーロッパ旅行中、ドイツでフラワーデザインに出会い、魅せられた。

川西さんは長崎県諫早市で産声をあげ、長崎市で育った。市内の高校を卒業後、商工中金長崎支店に就職する。さっそく職場の生け花教室に通う。それが川西さんの「花一杯の人生」のスタートだった。

川西さん一家は昭和55年（1980）、松戸市から南山に引っ越す。「松戸で運転免許を取っていたので助かりました。なにしろ当時はまだ駅前の商店街も聖仁会病院もなかったですから」

そんな白井も、今では人口約6万人の「市」になった。フラワーデザインの講師歴も今年で16年目。生徒に教えるだけでなく、20人以上の指導者を育成したことで、昨年、所属しているフラワーデザインの流派から「優秀講師賞」を受賞している。

現在、白井駅前センター、自宅などでフラワーデザイン教室を開く他、都内にも教室を持つ。11月からは白井駅北口のマンション内に新しい教室を開く。

受講者に展覧会や文化祭などの機会に作品発表の場をつくる一方で、川西さんは市内の小中学校や家庭教育学級でも指導している。

もうすぐクリスマスだが、「この時期になると、『クリスマス用のリースのつくり方を教えて』といった依頼が舞い込むんですよ。だから手帳の予定欄はビッシリ」

その上、自らの技術向上のために、研修会への出席も欠かさない。そんなに忙しいと、疲れ切ってダウンしないかと心配になるが、「ないです。きっと花に癒されてるんでしょうね。花に触れてると、疲れが飛んでっちゃうんですよ」

3人の娘たちも巣立ち、現在は夫婦2人暮らし。「お互いに多忙なので、寂しがる暇はない」という。